

<第1部 14:00~15:20>

「介護と私」～介護日記の朗読から～

村井 昭三 氏 認知症の方のご家族

1928(昭和3)年生まれ。東京都品川区在住。
アルツハイマー型認知症の妻を、初診から3年9ヶ月の間、最期まで在宅で介護した経験をもつ。



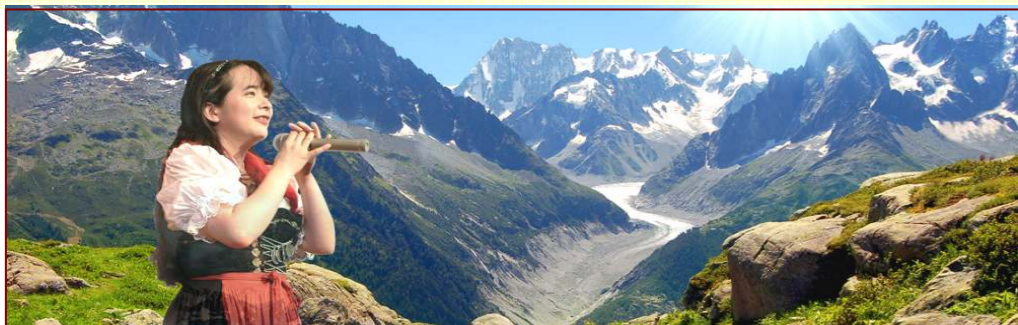
「地域で防ぐ・みんなで支える認知症」

講師：東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム研究部長 藤原 佳典 氏

1962年(昭和37) 京都市生まれ
医師、医学博士、日本老年医学会認定老年病専門医、日本老年精神医学会認定指導医。北海道大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院老年科等を経て、京都大学大学院医学研究科修了。
平成12年より東京都老人総合研究所勤務。平成15年米国ジョンズ・ホプキンス大学/加齢健康研究所訪問研究員。平成23年より現職。東京都健康長寿医療センター病院忘れ外来、兼務。高齢者の認知症予防について実践的研究を進めている。見守りセンサーを活用した、ひとり暮らし高齢者の安心な生活を支援するためのシステムづくり等、多数の研究を大田区で行っている。
「みんなの家庭の医学コミコミクリニック」等TV出演。



<第2部 15:30~16:30>



「野ばら」・「ローレライ」を会場みんなで歌いましょう!

国立音楽大学声楽科卒業。二期会オペラ会員在籍。
1992年よりスイスヨーデルをマリーテレーズ・フォン・グンテンに、ドイツヨーデルを・・・。
1993年よりインゲ・フォッファー、マリア・ヘルビック、オットー・ピアサック各氏に師事。
ホールコンサート、イベント等で活躍し、「ポンキッキーズ」など子ども番組にも多数出演。
東宝ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」
「マイフェアレディ」出演。
2008年スイス連邦ヨーデルフェスト最高級クラス1級取得。
スイスのオイグスター社より日本人初のヨーデルCDをリリース。



おおた高齢者見守りネットワーク主催

認知症の人と歩む町に

～正しい理解と、音楽と、笑顔～

尊厳をもって最期まで自分らしくありたい。誰もが抱くこの願いを阻み、今深刻な問題になっているのが認知症です。認知症は今や老後の最大の不安となり、超高齢社会を迎えようとする日本にとって重要課題の一つになっています。

85歳以上の4人に1人は認知症の症状があると言われ、今後寿命の延びに伴い、その患者数は倍増することが予想されています。

認知症を発症したことで、親しかった人たちとの関係が崩れたり、一人で生活出来なくなったり、介護する家族が疲れきって共倒れしてしまったりと、それまでの生活を続けることが難しくなる場合も少なくありません。

しかし、そこに周囲の理解があれば、「認知症であっても、住み慣れた地域で暮らし続ける」ことが出来るのではないのでしょうか。

その実現のためには、認知症の正しい知識と理解のもと、出来る範囲で支え、見守る意識を持った人が、地域の中に一人でも多く生まれることが重要です。ぜひこの機会に、私たちに何が出来るか一緒に考えてみましょう。

日時 平成24年1月28日(土)
14:00~16:30 (開場 13:30)

場所 エセナおおた(大田区立男女平等推進センター)
3階 多目的ホール

申し込み 定員 先着200名
(定員になり次第締め切りとします)
FAX又は電話にて
申し込みしてください。

- ◎ 入場無料。
- ◎ どなたでも申し込みいただけます。

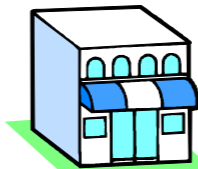
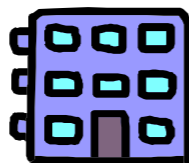
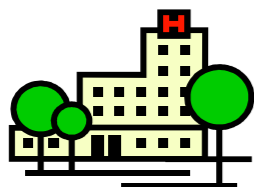
(申し込み・問い合わせ先)さわやかサポート入新井
TEL3762-4689 FAX3762-7465



【後援】大田区・大田区社会福祉協議会・社団法人大森医師会・社団法人蒲田医師会
社団法人田園調布医師会・大森歯科医師会・蒲田歯科医師会・蒲田薬剤師会
おおた社会福祉士会・大田区介護支援専門員連絡会・社団法人東京社会福祉士会
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

認知症になっても安心して暮らせるまち、おおた！

～独りじゃない つながり合う私たち～



本人や家族が・・・

地域で・・・

介護や医療の場では・・・

多くの人は・・・

- ①地域の高齢者相談窓口の『さわやかサポート』を知っていますか？
- ②早い段階で受診し、専門的な治療を受けましょう。
- ③悩みを抱え込まず、相談し必要な支援を受けましょう。
- ④認知症という病気について正しく理解しましょう。

- ①尊厳ある生活ができるように、介護や医療サービスを提供します。
- ②医療、介護、行政など、全ての専門機関が有機的に連携します。

- ①認知症になってもわかること、できることがあることを知りましょう。
- ②認知症の本人も様々な不安や混乱などを感じながらも自分なりの生活を継続しようとするのを応援しましょう。

- ①地域の方は声を掛けたり、さりげなく見守りましょう。
- ②気になること、困ったことがあったら、さわやかサポートへ連絡しましょう。
- ③認知症の人が道に迷ったときは、SOSキーホルダーが目印になります。



認知症による症状かもしれません

認知症高齢者を介護する家族が、最初に気づいた症状



こんな様子があったら、さわやかサポートへ情報提供してください。
※緊急の場合は警察等へ連絡を。

- ① 身なりの乱れ(服装が汚い、夏も冬も同じ服を着ている、臭い、髪がぼさぼさ)
- ② 今まで挨拶をしていた人が挨拶をしなくなった、表情が硬い
- ③ 買い物の際、小銭がたくさんあるにもかかわらず、毎回紙幣を出す
- ④ ゴミを上手く分別できなくなった、ゴミを出さなくなった
- ⑤ 最近痩せてきた、具合が悪そう、歩く姿が危なっかしい
- ⑥ 家事や買い物が辛い、食欲がない等と本人が言っていた
- ⑦ 姿を見かけなくなった
- ⑧ 怒鳴り声をする
- ⑨ 暑い日や寒い日、雨の日なのに、長時間家の外にいる
- ⑩ 新聞や郵便がポストに溜まっている
- ⑪ 同じ洗濯物が何日も干してある

①、②、③、④、⑨は
認知症の可能性

②、⑤、⑥、⑦は
体調不良の可能性

⑧、⑨は
虐待の可能性

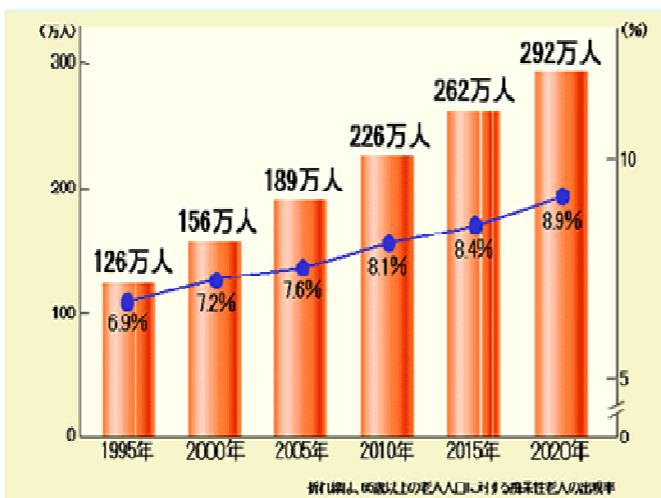
⑩、⑪は
屋内で倒れている可能性

東京都は数年後、4人に1人が65歳以上の超高齢社会を迎えます。お互いにつながり合い、支え合えば、不安になることはありません。

そこで、私たちがつながり合うためには、行政・医療・福祉の専門職、町内会・自治会・商店街、そして近隣住民の皆さんが連携し合い、互いに「気づき」、「見守り」、「支え合う」ことが重要だと考えます。

(おおた高齢者見守りネットワーク)

高齢者の増加に伴い、認知症の増加が予想されています



適切な治療により、社会資源を有効に活用しましょう。

